

小田原市議 佐々木ナオミの 議会な日々ニュース

extra -2 #0326

携帯電話 080-5484-1634 メール love-and-peace@naomi-sasaki.com

発行責任者 佐々木ナオミ 〒250-0874 小田原市鴨宮 831-7 tel&fax 0465-49-3732 HP http://naomi-sasaki.com/



市民ホール建設費 当初の1.3倍で可決!

3月議会で修正案

73億の建設費が予算計上!

27年度当初予算では、ついに新しい市民ホール (芸術文化創造センター)の建設費73億円弱が計 上されました。

長い時間をかけてやっとここまでたどり着きましたが、様々な市民要望を狭い敷地に詰め込んだ結果、建設単価が上昇し、いったいどれくらいの事業費になるのかが注目されてきました。

(仮) 城下町ホールの反省を踏まえて、多くの市民に計画段階から参加してもらったことはよいのですが、予算は青天井ではありません。もし予算が過大になったときには、市民の皆さんも含め、何かをあきらめるか、縮小するという選択をすべきだと私は議会で言い続けてきました。

100億円を越える事もありうる?

今回の約73億円という数字はあまりに高い。このほかにも拡張用地の取得に約8億円。外構や備品類にさらに約10億円かかる予定です。市債の利子が約5億円。事業費は100億ちかくになることでしょう。そして東京オリンピックを控えての未曾有の人手不足、資材不足による建設コストの急上昇。業界紙では連日のように公共事業の入札不調が報じられています。73億で誰も応札しなかったら、さらに追加の予算を組むのでしょうか。

減額の修正案を提出!

私は、植田議員木村議員とともに、 当初の加藤市長の公約通り、前小澤市 政の時の(仮)城下町ホールの建設費 57億以下に抑えるべき、という減額 の修正案を提案しました。

身の丈にあったホールでいい!

そもそも、市民が求めていたのはシンプルで質の良い、使いやすいホールっだったはず。オペラのためのオーケストラピット、本当に必要ですか? 大スタジオ、ないとダメですか?リハーサルは舞台でやったらどうでしょう?

大きな建物を建てれば、維持管理もそれなりにかさみます。今のところ維持費と人件費で年間3億円が見込まれています。40年で120億円です。道路や橋梁、下水道などのインフラの老朽化対策、斎場や市立病院などの建て替えも控えて、豪華すぎる市民ホールがせっかく改善してきた市の財政を圧迫することにならなければよいのですが。

おだわら市民ホールの迷走15年				
2000年	(仮称)城下町ホール建設市民委員会設置。			
2005年	小田原市の開いた設計競技(コンペ)で、山本理顕氏のプランに決定。			
2006年	山本プランの白紙撤回を求める市民運動始まる。			
2007年	(仮称)城下町ホール実施設計完了(建設費57億)			
2008年	加藤新市長誕生。旧プランは白紙に戻る。6月議会の所信表明で駅前再開発予定地にホール建設を提案。			
2009年	市民ホール建設準備会を設置。			
2010年	市民ホール基本構想(案)で建設予定地は再び三の丸広場へ。			
2011年	市民ホール基本構想(案)についての市民説明会			
2013年	芸術文化創造センターデザインプロポーザルの公開プレゼン テーション及びヒアリング(コンペ)開催。 新居千秋案に決定。			
2014年	芸術文化創造センター基本設計完了			
2015年	芸術文化創造センター施設整備費 73億円予算計上。			

佐々木ナオミの議会な日々ニュース #0326

3月議会で修正案

PFIでゴージャスな斎場建設。建設費は秦野・伊勢原市の2倍!!

斎場建て替え計画がいよいよ明らかに!

小田原市斎場は現在老朽化により、新しい斎場計画が進んでいます。今回は小田原市だけでなく、南足柄・大井・松田・山北・開成・箱根町の2市5町の広域斎場として整備してきました。建設地の拡張ができなかったことなどの影響で、現斎場を建て替え、事業主体は小田原市で、その他の市町は事務委託料を払っていくことになっています。

今回の計画は、PFI(Private Finance Initiative) という民間の力を使う事業手法で進めていくとのことです。しかも、今回市が採用したいと言っているやり方は、設計、建築、運営、さらには資金調達も含め、全部一括でひとつの業者に委託する手法です。

市では、委託の上限額を決めて債務負担行為(行政が組むローン)を設定。人口動態調査などから算出したピーク時の必要炉数を9基(現状6基)として、事業規模は約90億円(うち、施設整備費が50億~60億円)とのこと。

27年度当初予算では、これらを前提とした業者 選定のためのアドバイザリー委託料2000万円が提 案されました。

何もわからないのに、ローン組むの?

現在は、市民は無料の斎場使用料が、新斎場では どうなるのか、各市町の負担の割合はどれくらいな のか?そして、どういう施設ができるのかなども含 め、未だに何も提示されていません。このような状 態で市は今年6月議会に債務負担行為の提案をする 予定のようです。もし議会で可決すると、そのあと

議会の「会派」っていったい何?

現在多くの地方議会には"会派"という議員が自由に形成するグループがあり、議会の運営や発言のルールが会派を基準につくられています。私は今期、横田議員、植田議員と3人で、会派「未来おだわら」をくみ、活動してきました。

しかし、3月18日の予算特別委員会の、会派としての総括質疑前日、斎場問題についての意見の違いなどから、副議長をつとめる横田議員が突然会派を離脱したため、会派は消滅し、私たちは一切の質疑を

は、民間業者の内部の話であって、市民はもちろん、 行政も議会も介入する余地はありません。

なんとなくPFI、ざっくり90億円?

本会議や予算委員会の質疑で、PFI手法の導入、 炉数9基で90億という事業規模、これらの根拠がか なり曖昧だということがわかってきました。

斎場という極めて公共性の強い事業に民間活力を 導入することはナンセンスです。他市の状況を見て も、設計、建設、運営などを個別にチェックしつつ 発注する従来方式を採用している自治体が大半です。 人口規模でほぼ同じ秦野・伊勢原市では従来方式を 採用して約半額の施設整備費におさまっています。

引き返すなら今です。修正案提出!

私は、植田議員、木村議員と共に斎場関連を削除した修正案を提出しました。否決はされましたが、7名の議員の賛同を得ることができました。はたして、6月議会までに、事業見直しの道筋を作れるかどうか。ぜひご注目ください。

	小田原 現斎場	小田原 新斎場	秦野・伊勢原 新斎場
事業主体	小田原市	小田原市	秦野・伊勢原市
利用自治体	2市5町 及び周辺	2市5町 及び周辺	秦野・伊勢原市 及び周辺
人口	30万人	30万人	27万人
炉数	6	9	7+予備
施設整備費		50~60億円	27億円
事業手法	従来方式	PFI	従来方式

行えなくなってしまいました。 (小田原市議会では 会派の成立条件を3名からとしています。)

今回の件は、議員自ら発言の機会を放棄すると言う前代未聞の事態であると同時に、会派の有無が、議員個人の発言の機会を左右する事につながるという、"会派主義"の悪しき一面を浮き彫りにするものでした。

今後の議会改革の大きなテーマとして扱うよう、 議長に申し入れました。来期は私もこの件に関して 積極的に発言していきたいと思います。